

社団法人 日本ボディビル連盟
平成21年度 第2回 総会 議事録 (抜粋)

◇ 日 時 平成22年3月14日(日) 午後3時45分～午後5時30分

◇ 場 所 国立スポーツ科学センター 大研修室
東京都北区西が丘3-15-1 TEL.03-5963-0200

◇ 会長挨拶

昨年は国際政治も国内政治も大きくチェンジしましたが、ボディビル界にも大きな激震が走りました。ポールチュア氏にリードされるアジアボディビル・フィットネス連盟(ABBF)が、ラファエル・サントソ会長の率いる国際ボディビル・フィットネス連盟(IFBB)に叛旗を翻して資格停止処分となり、アジア地区はポールチュア氏の ABBF と IFBB に属する AFBF の二つに分裂した状況になりました。JBBF は冷静に現実を洞察した結果、直接の原因がポールチュア氏及び香港のサイモン・チャン会長がドーピングの陽性選手を偽って 2006 年カタールのドーハで開催されたアジア競技大会に出場させたことが WADA (国際アンチドーピング機構)の指摘で明るみに出たことにあります。JBBF は JOC とも打合せを行い、IOC と連携している GAISF (国際スポーツ競技団体連合)の主要メンバーである IFBB と WADA のルールに従って行動することを確認致しました。

このような国際情勢の中で進路を誤らず JBBF の主体性をしっかりと確立してゆく為に今年は大きく分けて四つの目標を掲げております。

- ① 公益法人制度改革にともなう方向性を選別し、その準備に着手すること。
- ② ボディビルの愛好者層を拡大し、生涯スポーツの基盤整備の観点から日本体育協会への加盟を実現すること。
- ③ 国際・国内の各種事業を再検討し、より強力に推進する為組織を活性化させること。
- ④ 財源の強化を検討して実現を図ること。

以上が今年度の重点目標と思いますので、皆様方のより一層の協力をお願いする次第です。

◇ 議長選出 定款 22 条により、議長は玉利齊会長を選出。

◇ 定足数の確認 正会員総数58名。本日出席正会員22名、委任状による出席正会員34名、欠席正会員2名、合計出席正会員58名により正会員総数の過半数を上回り、定款第24条に基づき総会は成立。

【第一号議案】平成21年度後期事業報告

1. 国内事業

- (1) 2009 年第 55 回男子日本ボディビル選手権大会
2009 年第 27 回女子日本ボディビル選手権大会
開催日:平成 21 年 10 月 12 日(月祝) 会 場:東京 メルパルクホール
出場選手数:男子 39 名、女子 29 名
- (2) 2009 年第 4 回全国高等学校ボディビル選手権大会
開催日:平成 21 年 10 月 12 日(月祝) 会 場:東京 メルパルクホール
出場選手数:6 名
- (3) JOC ジュニアオリンピックカップ 2009 年第 21 回日本ジュニアボディビル選手権大会
開催日:平成 21 年 10 月 12 日(月祝) 会 場:東京 メルパルクホール
出場選手数:16 名
- (4) 2009 年第 21 回日本マスターズボディビル選手権大会
開催日:平成 21 年 9 月 20 日(日)
会場:東京都 江戸川区総合区民ホール(タワーホール船堀)

- (5) 第31回ユニセフハンド・イン・ハンド協力
恵比寿ガーデンプレイスにて 2009年12月23日(水)12:00～16:00
ボディビルゲスト出演 合戸孝二選手 下田雅人選手
玉利齊会長、藤岡秀樹理事、五十嵐清四郎理事、鳥谷部篤広報委員長、角田和弘氏、
上野俊彦氏、西勝氏、小西康道事務局長、以上が参加、感謝状が贈呈された。
- (6) 平成21年度JBBF公認指導員認定講習会(予定)
東京 北とぴあ&国立スポーツ科学センター 平成22年3月20日～22日

2. 国際事業

- (1) 2009年女子世界ボディビル、フィットネス、ボディフィットネス選手権大会
開催日:2009年10月16日～19日 会場:イタリア コモ
参加国数: 40カ国 出場選手数: 175名
- (2) 2009年第63回世界男子ボディビル選手権大会
開催日:2009年11月2日～5日 会場:カタール ドーハ
参加国数: 80カ国 出場選手数: 169名
- (3) 2009年第29回世界ジュニア&マスターズボディビル選手権大会
開催日 2009年11月13日～15日 会場:ポーランド ビアウイストク
参加国数: 45カ国 出場選手数: 270名
- (4) 2009年第4回世界男子クラシックボディビル選手権大会
開催日 2009年12月11日～14日 会場:スペイン アルカラ・デ・エナーレス
参加国数: 25カ国 出場選手数: 98名
開催日 2009年12月11日～14日 会場:スペイン アルカラ・デ・エナーレス
- ① 2010年男子世界大会は、アゼルバイジャンにて開催。同時に国際ボディビル連盟(IFBB)総会が開催。
- ② オリンピック種目にボディビルが入る為には、ドーピングの観点からもクラシックボディビル競技の可能性がラファエル・サントンハ会長より強調された。
- ③ 今後女子ボディビルの方向性としては、ボディフィットネス競技が世界的に伸びていく。
- 以上、第一号議案が報告され、全会一致で承認された。

【第二号議案】 平成22年度事業計画及び収支予算案について

1. 平成22年度 事業方針

今年度の事業方針は4つの重要課題に基づいて具体案を作成して実施する。

- ① 公益法人制度改革への対応
JOCとよく相談し、他の加盟団体の動向を見て当連盟に最も適切と思われる制度の認可にふみ切る。
- ② 日本体育協会への加盟
原則として日本体育協会加盟は地方体協へ10ヶ所以上加盟の実績がなければ加盟出来ないが、当連盟の場合はボディビルの全国統括団体として法人化を実現しJOCの加盟団体としてアジア競技大会へも参加(メダル獲得の実績)もあるので後1～2ヶ所の地方体育協会へ加盟が認められれば日本体育協会は加盟を認可するといっているため、次年度は是非必要条件を満たして日本体育協会加盟を実現したい。
地方連盟の一層の協力と努力をお願いする次第です。
- ③ 各種事業の再検討に基いた推進
- ④ 財源の強化

2. 平成22年度 事業計画 平成22年4月1日～平成23年3月31日

- (1) ボディビルの普及及び振興
① 日本連盟の各種主催大会実施

- ② 地方連盟に対するボディビルクラブの新加盟促進指導
 - ③ 高齢化社会への対応策の一環として、公共施設及び企業を対象にした生涯スポーツとしてのボディビル普及
 - ④ ボディビルクラブの経営の合理化及び向上に関する検討
 - ⑤ 地方選手権、ブロック選手権大会に対する競技運営指導と審査指導
 - ⑥ 日本体育協会への加盟促進と個人登録の拡大
 - ⑦ 全国高等学校体育連盟への協力要請、
 - ⑧ 健康日本21運動(厚生労働省)への参画
 - ⑨ 公益法人制度改革への対応
 - ⑩ 競技運営システムの徹底、制度化の検討
 - ⑪ 登録会員(選手・指導者・審査員)の拡大
 - ⑫ 連盟主催大会の効率化
- (2) ボディビル指導者の育成、指導並びに指導員資格の認定及び登録
- ① 公認指導員講習会並びに認定試験の実施及び登録
 - ② パーソナルトレーナー制度の検討
 - ③ 健康づくりの指導者資格制度の検討及び推進
 - ④ 厚生労働省健康づくり施策との連携の検討
- (3) ボディビル競技の選手強化のための方策の検討
- ① JOC ジュニア特別強化選手の選考
 - ② 強化合宿の実施
 - ③ 財団法人日本オリンピック委員会の各委員会への参加
 - ④ ボディビル施設と地方自治体健康づくり施策との連携の検討
 - ⑤ ジュニアの強化並びに高校選手権に女子の導入
- (4) ボディビル施設の認定及び登録
- ① ボディビル施設の認定、登録の実施
 - ② ボディビル施設の運営向上のための検討並びに協力
- (5) ボディビルのトレーニング用機器、用品、食品等の研究
- ① 公認品、推奨品の認定
JBBF 男子公認トランクス、女子公認ビキニ及び公認ワンピースの認定
 - ② トレーニング機器の安全性及び効果の研究
 - ③ 栄養補助食品について調査及び研究
- (6) ボディビルに関する刊行物の発行及び監修
- ① 公式ホームページの充実
 - ② ボディビル連盟機関紙の発行及び内容の充実
 - ③ 認定ビデオ・DVDの作成及び販売
 - ④ ボディビルに関する刊行物の監修
 - ⑤ ボディビルのトレーニング手引書の検討と作成
- (7) ボディビル競技会の公認審査員養成並びに審査員資格の認定及び審査員の登録
- ① 日本連盟主催大会においてジャッジテスト並びにジャッジトレーニングの実施
 - ② 審査員指名の基礎資料となる個人別審査得点のデータベース作成
 - ③ 審査員のレベルアップの為の講習会検討、及び実施

(8) ボディビル競技の日本選手権大会及びその他の主催選手権大会の開催

- ① 日本クラス別ボディビル選手権大会の開催
- ② ジャパンオープンボディビル選手権大会の開催
- ③ ジャパンミックスドペアボディビル選手権大会の開催
- ④ 日本女子チャレンジカップボディビル選手権大会の開催
- ⑤ ミス 21 健康美大会の開催
- ⑥ オールジャパンミスフィットネス選手権大会の開催
- ⑦ オールジャパンミスボディフィットネス選手権大会の開催
- ⑧ 日本マスターズボディビル選手権大会の開催
- ⑨ 日本クラシックボディビル選手権大会の開催
- ⑩ 男子日本ボディビル選手権大会の開催
- ⑪ 女子日本ボディビル選手権大会の開催
- ⑫ JOC ジュニアオリンピックカップ日本ジュニアボディビル選手権大会の開催
- ⑬ 全国高等学校ボディビル選手権大会の開催

(9) 我が国のボディビル界を代表して国際組織への参加

- ① IFBB総会への出席 月 日～ 日
- ② AFBF総会への出席 月 日～ 日

(10) ボディビル国際選手権の開催及び国際選手権への代表選手、審査員、役員の選考及び派遣

- ① 第 16 回アジア競技大会へ選手役員の派遣 11月12日～27日
- ② 2010 年第 27 回アジア女子ボディビル選手権大会へ選手役員の派遣 (未定)
- ③ 2010 年第 12 回アジアミスフィットネス選手権大会へ選手役員の派遣 (未定)
- ④ 2010 年第 7回アジアミスボディフィットネス選手権大会へ選手役員の派遣 (未定)
- ⑤ 2010 年第 23 回アジアジュニアボディビル選手権大会へ選手役員の派遣 (未定)
- ⑥ 2010 年第 12 回アジアマスターズボディビル選手権大会へ選手役員の派遣 (未定)
- ⑦ 2010 年第 44 回アジア男子ボディビル選手権大会へ選手役員の派遣 (未定)
- ⑧ 2010 年第 2 回アジアクラシックボディビル選手権大会へ選手役員の派遣 (未定)
- ⑨ 2010 年第 28 回世界女子ボディビル選手権大会へ選手役員の派遣
- ⑩ 2010 年第 15 回世界ミスフィットネス選手権大会へ選手役員の派遣
- ⑪ 2010 年第 8 回世界ミスボディフィットネス選手権大会へ選手役員の派遣
10月 1日～ 4日 メキシコ
- ⑫ 2010 年第9回日韓親善ボディビル選手権大会へ選手役員の受入
8月 1日～ 日 東京 品川きゅりあん
- ⑬ 2010 年第 64 回世界男子ボディビル選手権大会へ選手役員の派遣
11月 3日～ 8日 アゼルバイジャン
- ⑭ 2010 年第 30 回世界ジュニアボディビル選手権大会へ選手役員の派遣
- ⑮ 2010 年第 30 回世界マスターズボディビル選手権大会へ選手役員の派遣
- ⑯ 2010 年第 3 回世界クラシックボディビル選手権大会へ選手役員の派遣
11月19日～22日 ハンガリー

(11) 収益事業の検討および推進

(12) その他、この法人の目的達成並びに社会貢献に必要な事業

- ① ユニセフ等のチャリティへの全国規模による積極的な協力
- ② 他友好団体の主催事業に対する後援等の協力

3. 収支予算書 [別紙参照]

【第三号議案】 主催大会開催申請及び承認について

1. 2010年度

- ① 2010 年第 21 回ジャパンオープンボディビル選手権大会の開催
2010 年第 27 回ジャパンミックスドペアボディビル選手権大会の開催
7月4日(日) 愛知県 産業労働センター (愛知県連盟)
- ② 2010 年第 14 回日本クラス別ボディビル選手権大会の開催
7月25日(日) 東京都葛飾区 葛飾シンフォニーヒルズ (東京連盟)
- ③ 2010 年第 18 回日本女子チャレンジカップボディビル選手権大会の開催
2010 年第 10 回ミス 21 健康美大会の開催
8月1日(日) 東京都品川区 きゅりあん大ホール (日本社会人連盟)
- ④ 2010 年第 15 回オールジャパンミスフィットネス選手権大会の開催
2010 年第 4 回オールジャパンミスボディフィットネス選手権大会の開催
2010 年第 2 回日本クラシックボディビル選手権大会の開催
8月8日(日) 福岡県 北九州市小倉南生涯学習センターホール (福岡県連盟)
- ⑤ 2010 年第 22 回日本マスターズボディビル選手権大会の開催
9月19日(日) 東京都江戸川区 タワーホール船堀 (日本連盟マスターズ委員会)
- ⑥ 2010 年第 56 回男子日本ボディビル選手権大会の開催
2010 年第 28 回女子日本ボディビル選手権大会の開催
JOC ジュニアオリンピックカップ 2010 年第 22 回日本ジュニアボディビル選手権大会の開催
2010 年第 5 回全国高等学校ボディビル選手権大会の開催
10月3日(日) 大阪 メルパルク大阪 (日本連盟実行委員会)

2. 2011年度

- ① 2011 年第 16 回オールジャパンミスフィットネス選手権大会の開催
2011 年第 5 回オールジャパンミスボディフィットネス選手権大会の開催
長野県連盟より申請
- ② 2011 年第 23 回日本マスターズボディビル選手権大会の開催
平成 23 年 9 月 18 日(日) 東京都江戸川区 タワーホール船堀
日本マスターズ委員会より申請

以上、第三号議案が報告され、全会一致で承認された。

【第四号議案】 規程の改定、及び新規規則について〔別紙参照〕

【第五号議案】 新規加盟クラブ及び退会クラブについて

1. 新規加盟クラブ

- (1) 所属 : 千葉県連盟(クラブ)
クラブ名: ボディフェイス(準加盟) 設立 : 平成 21 年 11 月 1 日
住所 : 千葉県印西市木下 1450 電話 : 0476-42-8867
代表 : 渡邊 信義(2010 年 3 月受講予定) 指導員: なし
- (2) 所属 : 神奈川県連盟(クラブ)
クラブ名: ゴールドジム厚木神奈川(準加盟) 設立 : 平成 17 年 1 月 3 日
住所 : 厚木市中町 2-4-13 本厚木駅前ビル 5F 電話 : 046-294-3331
代表 : 手塚 栄司(指導員資格なし) 指導員: 濱田裕介(受講予定)
入会金: 5,250 円、月会費: 9,000 円
- (3) 所属 : 神奈川県連盟(クラブ)
クラブ名: ゴールドジム横浜馬車道(準加盟) 設立 : 平成 6 年 10 月 1 日
住所 : 横浜市中区弁天通 4-67-1 電話 : 045-212-0606
代表 : 上山 憲一(指導員資格なし) 指導員: 高野明紀(受講予定)
- (4) 所属 : 神奈川県連盟(クラブ)

- クラブ名:ゴールドジム横須賀神奈川(準加盟)設立 :平成 15 年 5 月 1 日
 住所 :横須賀市若松町 2-4 横須賀中央駅前ビル 電話 :045-828-1818
 代表 :上山 憲一(指導員資格なし) 指導員:高橋成彦(受講予定)
- (5)所属 :日本社会人連盟(クラブ)
 クラブ名:株式会社アクトコーポレーションボディビルクラブ(準加盟) 設立 :平成 21 年 4 月 1 日
 住所 :埼玉県川越市鯨井新田 16-16
 代表 :大関 淳(指導員資格なし) 指導員:なし
- (6)所属 :日本社会人連盟(クラブ)
 クラブ名:群馬県庁ボディビルクラブ(準加盟) 設立 :平成 22 年 1 月 1 日
 住所 :群馬県前橋市大手町 1-1-1
 代表 :成澤 篤史(指導員資格なし) 指導員:なし
- (7)所属 :三重県連盟(クラブ)
 クラブ名:KING SPIRITS GYM(準加盟) 設立 :平成 19 年 6 月 15 日
 住所 :三重県伊勢市御薊町王中島 853-2 電話 :0596-29-1530
 代表 :世古口 和久(指導員資格なし) 指導員:なし
- (8)所属 :神奈川県連盟(クラブ)
 クラブ名:ゴールドジム湘南神奈川(準加盟) 設立 :平成 16 年 11 月 1 日
 住所 :神奈川県藤沢市辻堂 2-7-1 電話 :0466-30-5353
 代表 :手塚栄司(指導員資格なし) 指導員:濱田将成(受講予定)
- (9)所属 :滋賀県連盟(クラブ)
 クラブ名:ゴールドジム栗東滋賀(正加盟) 設立 :平成 18 年 4 月 29 日
 住所 :滋賀県栗東市糺 2-4-5 電話 :077-554-2255
 代表 :手塚栄司(指導員資格なし) 指導員:田代 誠(2級)
- (10)所属 :日本社会人連盟(クラブ) 設立:平成 21 年 1 月 10 日
 クラブ名:キャンプ・ハンセン消防ボディビルクラブ(正加盟)
 住所 :金武町金武 キャンプ ハンセン
 代表 :城間 明(二級指導員) 指導員:城間 明
- (11)所属 :静岡県連盟(同好会) 設立:平成 22 年 1 月 1 日
 クラブ名:マンモスボディビル同好会(正加盟)
 住所 :静岡県富士市蓼原 883-8 電話:0545-63-3029
 代表 :和田信彦(二級指導員) 指導員:和田信彦

2. 退会クラブ

- | | | | |
|-----------|-----------------|--------|-----------|
| (1) 宮崎県連盟 | K'sトレーニングクラブ | 前田一洋代表 | 閉鎖 |
| (2) 北海道連盟 | ブラザーズジムボディビル同好会 | 木下弘一代表 | 退会(選手減少) |
| (3) 北海道連盟 | 苫小牧ボディビル同好会 | 岡本典昌代表 | 退会(選手減少) |
| (4) 福岡県連盟 | スポーツプラザウイザス | 田中繁久代表 | 閉鎖 |
| (5) 栃木県連盟 | 石橋トレーニングクラブ | 阿部忠雄代表 | 退会(代表死去) |
| (6) 社会人連盟 | ANKボディビルクラブ | 衛藤雄一代表 | 退会(クラブ廃部) |
| (7) 社会人連盟 | 湖山病院ボディビルクラブ | 山本真也代表 | 退会(クラブ廃部) |
| (8) 佐賀県連盟 | パインポート | 原口浩信代表 | 閉鎖 |

3. その他

- (1) 静岡県連盟 代表者の変更:SEIBU GYM[鈴木将弘から鈴木章弘(御子息)へ]
 (2) 長野県連盟 クラブ(オンリーワン・フィットネス&トレーニングジム)から、
 オンリーワン・フィットネス&トレーニングジムボディビル同好会へ(代表者変更なし)
 (3) 鳥取県連盟 ワールドウイング(小山代表)の退会理由の変更
 体調不良ではなく、クラブがボディビル競技より撤退

(4) 社会人連盟 クラブ名変更:延岡養護高等学校ボディビルクラブから、
延岡わかあゆ支援学校ボディビルクラブへクラブ名変更(代表者変更なし)
以上、第五号議案が報告され、全会一致で承認された。

【第六号議案】 専門委員及びJOC強化スタッフの推薦について

アンチドーピング委員	(1) 清水恵理子(薬剤師)	アンチドーピング委員会より推薦
JOC強化スタッフ	(2) 辻本俊子(コーチングスタッフ)	日本連盟より推薦
	(3) 片川 淳(コーチングスタッフ)	日本連盟より推薦
	(4) 中野 慶(マネジメントスタッフ)	日本連盟より推薦
	(5) 大瀬利行(マネジメントスタッフ)	日本連盟より推薦

(次頁一覧表)参照

以上、第六号議案が報告され、全会一致で承認された。

その他 運営に必要な事項の報告

1. 前回理事会での宮本譲治理事の発言(平成20年12月1日以降は公益法人改革に伴う公益三法の成立によって、会長・理事会は存続しないとの意見)について、藤岡秀樹理事(弁護士)は、諸官庁(文部科学省、総務庁、内閣府)に確認し、社団法人日本ボディビル連盟は現在特例社団法人として存続し、その定款、理事は旧民法時代に認められた効力・地位を新法人移行まで認めていることを明らかにし、法的に何らの問題もないことを説明した。
2. 2010年度日韓親善大会の日程は、8月1日、社会人連盟協力で同時開催として行うことが決定した。但し五十嵐清四郎理事より大会会場の調整を行うことが説明された。
3. 以下の役員にて法人改革準備委員会の設立が決定した。
玉利齊会長、吉田進副会長、青田正順常務理事、藤岡秀樹理事、
井澤雅章総務委員(会計担当)、顧問:佐藤和弘公認会計士
4. 加盟義務を果たしていない県連について、状況報告書(一覧表)を事務局が作成し各ブロック代表理事に送付される。それをもとに確認し各代表理事は6月の理事会までに報告書を提出することが決定した。
5. 財政基盤の確立について、今後は選手登録数、また審査員、指導員を増やしていく。また収益事業の商品を増やして、審査員の専用バッチなどを規定し売り上げを上げていくことと、日本クラス別大会を日本連盟直営(2011年より)とすることが決定された。
6. JBBF公認女子ビキニについては、6月までに専門家や女性の代表となる選手の意見をもとに方向性を提案してもらうことが決定した。但し2010年の大会は従来通りとすることが決定した。
7. 競技運営委員制度については、競技運営委員の資格制度化によりどこの地方大会でもスムーズに進行が図れるようにすることが提案され、今の地方連盟による格差を標準化していくための役割・原案を鳥谷部篤委員長が6月理事会までに作成することが決定した。
8. 健康づくりのためのヘルスウエイトトレーナー制度については、ボディビル、イコールウエイトトレーニングであり、健康づくりの為のウエイトトレーニングが社会的に認知されている昨今、ボディビル競技の為の指導員とは別に健康づくりの為の指導者制度(ヘルスウエイトトレーナー)を JBBF 玉利齊会長、指導委員会石井直方委員長(東京大学大学院教授)、栗原隆先生(スポーツクター、新宿健診センター診療部長)、谷本道哉先生(近畿大学)、小西康道事務局長と、タイアップして開催する(財)日本健康スポーツ連盟小内雅昭事務局長、石本道雄常務理事とで、この制度のための講習会を検討しているこ

とが磯野武夫理事待遇(ヘルスウェイトトレーナー制度担当)より報告された。講習会日程は医科学分野で2日、健康・運動分野で2日、計4日間で行う内容を検討中であることが報告された。

9. ミスフィットネス、ミスボディフィットネス、ミス 21 健康美、各競技ルールの徹底(コスチューム、ポーズ等)については、言葉だけの説明では不十分であるとの10月理事会での意見をもとに、五十嵐清四郎理事(フィットネス委員)より、視覚で確認できる写真入り資料の説明があった。
10. 地球温暖化啓発文の大会プログラム掲載への義務化について
JOC がスポーツ分野での環境問題を2001年より実践活動している。JBBFでも数年前から活動を行っていたが昨年環境委員会が新設され活動を行っている。そこで平成22年度の主催大会は勿論のこと、ブロック、地方大会でのプログラムに環境問題に連盟として取り組み、より多くの賛同を得るために普及広報のページを掲載することを磯野武夫環境委員長より全国の地方連盟にお願いがあり、全会一致で決定された。
11. 2010年開催の日本クラス別ではカラーの使用を行わないことが理事会で決定され、日本選手権でも今年の大阪の大会から原則使用しないことが決定したことが報告された。但し国際大会へ派遣する選手には合宿してカラーリングの研修を行うことが報告された。
12. ジュニア選手の育成強化(高校大会に女子部門の新設)については、22年度より女子ボディフィットネスを実施する方向であることが報告された。
13. 3名の公認審査員特別昇級申請があり、審査委員会で承認されたことが報告された。
14. 22年度JBBF公認指導員認定講習会の開催地申請(大阪連盟より)については、理事会で承認されたことが報告された。
15. 公認クラブの看板に、選手の写真を掲載したいとの要請があったが、場所、原稿内容などを詳しく記載された申請書を提出させ、内容を執行部にて審議することが報告された。
大阪連盟:スポーツクラブ トライ
選手: 猿山直史(08年日本クラス別75kg級6位)

以上で総会が閉会した。